目　次

序 …… 1

第Ⅰ編　スポーツマンシップの概念史 …… 1
第1章　スポーツの概念史 …… 3
1.1「スポーツ」の三要素―遊戯，競争，身体運動 …… 3
1.2「スポーツ」(sport) …… 5
1.3「ゲーム」(game) …… 6
1.4「アスレティックス」(athletic(s)) …… 7
第2章　英米系辞書にみる「スポーツ」と「スポーツマンシップ」 …… 9
2.1　スポーツマンシップ・イデオロギーの発生 …… 9
2.2「スポーツ」概念の変容―狩猟から運動競技へ …… 10
2.3「スポーツマンシップ」―倫理的意味の付与 …… 12
2.4　英米系辞書にみる「スポーツ」と「スポーツマンシップ」の記述 …… 14
第3章　「スポーツ」用語の日本的受容 …… 17
3.1　英和辞典にみる「スポーツ」と「スポーツマンシップ」 …… 17
3.2　英和辞典にみる「ゲーム」と「アスレティックス」 …… 20
3.3　国語辞典にみる外来語「スポーツ」と「スポーツマンシップ」 …… 21

第Ⅱ編　イギリス近代スポーツとその精神の形成 …… 27
第4章　イギリス近代スポーツの形成 …… 29
4.1　フィールド・スポーツ―狩猟「文化」 …… 29
4.2　クラブスポーツ，パトロンスポーツ，賭博スポーツ …… 31
4.3　伝統的民衆スポーツの統制と再編―「合理的レクリエーション」 …… 35
4.4　近代スポーツの成立―アマチュア・スポーツ体制のヘゲモニー …… 39
4.5　近代スポーツマンシップ …… 47

4.6　スポーツの国際化—近代スポーツの国際コードの成立……48
4.7　スポーツの大衆化……50
(1) プロとアマチュアの抗争　(2) スペクテイター・スポーツとメディア　(3) スポーツとユース・カルチャー　(4) プロレタリア・スポーツ　(5) スポーツウーマン
4.8　エコロジーとスポーツ……55
4.9　スポーツ・フォア・オール—スポーツへの国家関与……56
4.10　消費文化とスポーツ—福祉か消費か……58
第5章　イギリス・スポーツ教育の精神—課外教育と自治の発見……63
5.1　トマス・アーノルド—徳育と教育……63
(1) アーノルド像の揺らぎ　(2) アーノルドの生涯　(3) アーノルドの教育思想　(4) スポーツ教育と徳育
5.2　アーノルディズムの行方……73
(1) アーノルディズム—課外教育と自治の原理　(2) スリングと機構　(3) クーベルタンと位階制
第6章　モバリー校長とウィカミストの反抗
—パブリックスクール・マッチ論争……83
6.1　パブリックスクール・マッチとモバリー校長の干渉……83
6.2　ウィカミスト会結成の目的と行動—抗議……87
(1) ウィカミスト会の目的と規約　(2) 行動の推移
6.3　擁護と拒絶……96
(1) 擁護　(2) 拒絶
6.4　論争の結末—鎮静と安定……105
第7章　パブリックスクール教育と「制度」としてのゲーム活動
—近代スポーツマンシップの温床……109
7.1　クラレンドン委員会報告書……109
7.2　報告書以前のゲーム活動……112
7.3　ゲーム活動を規定する条件—課外活動の「制度化」……115
(1) 生徒数と教師数　(2) 学年構成と進級制度　(3) 時間割と半日休日制度　(4) 休日制度　(5) プリーフェクト制度，モニ

トリアル制度
7.4　各校におけるゲーム活動の状況 …… 129
(1) イートン校　(2) ウィンチェスター校　(3) ウエストミンスター校　(4) チャーターハウス校　(5) セントポールズ校　(6) マーチャントテーラーズ校　(7) ハロー校　(8) ラグビー校　(9) シュルーズベリー校
7.5　クラレンドン委員会報告書にみるゲーム活動 …… 136
第8章　ゲーム活動組織化の原理
—能力主義の神話とノーブレス・オブリージの残存 …… 139
8.1　ゲーム活動組織化の原理 …… 139
8.2　ゲーム活動の状況 …… 140
8.3　進級制度と賞制度—能力主義の神話 …… 140
8.4　寮制度とプリーフェクト・ファギング制度 …… 143
8.5　ノーブレス・オブリージの残存とリーダーシップ …… 147
第9章　ラグビー・フットボールの神話化
—エリス伝説と『ラグビー・フットボールの起源』(1897) … 151
9.1　先行研究—ダニングとシャドの見解 …… 151
9.2　ラグビー・フットボール起源調査に関する小委員会の設置 …… 153
9.3　報告書にみるORSの反論と調査法 …… 157
(1) ラグビー校のプレーイング・フィールドの調査　(2)「Running with the ball」の調査　(3) 回答者とウェッブ・エリスとの関係　(4)「Running with the ball」の登場
9.4　ラグビー・フットボール起源の神話化 …… 167

第Ⅲ編　「筋肉的キリスト教」とスポーツマンシップの言説 …… 171
第10章　チャールズ・キングズリと「筋肉的キリスト教」 …… 173
10.1「筋肉的キリスト教」 …… 173
10.2　チャールズ・キングズリ …… 176
10.3「筋肉的キリスト教」の原像 …… 178
(1) 筋肉的キリスト教徒　(2) 筋肉的キリスト教と肉体

(3) 筋肉的キリスト教とスポーツ
10.4　キングズリに見る「筋肉的キリスト教」の思想構造 …… 185
(1) チームスピリット—「協同」の思想　(2) マンリネス—騎士道理念の復古　(3) 保健の科学—民族の健康
10.5「筋肉的キリスト教」と近代スポーツマンシップ …… 196
第11章　トマス・ヒューズと「筋肉的キリスト教」…… 201
11.1『トム・ブラウンの学校生活』
—筋肉的キリスト教徒のスポーツマンシップ …… 201
(1) クリスチャン・マンリネス—「闘争の宗教」　(2) プリーフェクト・ファギング制度とチームスピリット—協同の宗教
11.2『オックスフォードのトム・ブラウン』
—トム・ブラウンとレスペクタビリティー …… 208
11.3『白馬の祭り』—民衆スポーツとスポーツマンシップ …… 212
11.4　闘争倫理としてのスポーツマンシップ…… 217

第Ⅳ編　スポーツマンシップの伝播と受容 …… 221
第12章　オリンピズムへの接続…… 223
12.1　英国心酔者(アングロマニー)—クーベルタン …… 223
12.2　アーノルディアン—イギリスの教育と競技教育 …… 225
(1)『イギリスの教育』　(2)『競技教育』　(3)『イギリスの競技とゲームについてのフランス人の見解』
12.3　コスモポリタニズム，インターナショナリズム，ネオ・オリンピズム …… 232
(1) ヘレニズムへの傾斜　(2) ネオ・オリンピズムとコスモポリタニズム
12.4　オリンピズムとスポーツマンシップ …… 241
(1) スポーツ教育の継承　(2) オリンピズム　(3) 近代「スポーツ」概念の創出とスポーツマンシップ
12.5　オリンピズム—世界主義(コスモポリタニズム)か国際主義(インターナショナリズム)か …… 249

第13章　武田千代三郎と「競技道」—スポーツマンシップの日本的受容 … 257
13.1　回想としてのF.W.ストレンジとスポーツマンシップ …… 257
13.2　武田千代三郎の「競技運動」と「競技道」 …… 264
(1)「競技運動」—手段論，室外教育，競技化と標準化　(2)「体勢訓練」—水抜き・油抜き理論　(3)「競技道」とその徳目
13.3　武田千代三郎の「競技道」の系譜と媒介項 …… 276
(1) 菊池大麓の「運動の精神」　(2) 木下廣次の「運動意見」　(3)「体勢訓練」の理論的基礎—ラグランジュとシュミットの運動生理学　(4) マイルズのゲーム教育論　(5)『英国々會議員撰擧ニ関スル賄賂犯』とアマチュアリズム
13.4　武田千代三郎の「競技道」の系譜とその性格 …… 293

第Ⅴ編　付録 …… 305
付録1　イギリスにおける各種スポーツ統括団体の結成年譜 …… 307
付録2　スポーツマンシップの言説年譜 …… 308
付録3　クーベルタン『パブリックスクールが失敗？』 …… 310

あとがき …… 321

索　引 …… 325